

## 絵が生活の中にある日常～生活を豊かにしてくれる副教科たち～

義務教育での勉強と言えば、国語、算数、理科、社会、英語などが主要教科とされており、各々の家庭でも子どもに勉強するようにとっている保護者は多い。一方で、スポーツで例えるならサブメンバーともいえるような、音楽、図画工作(図工)、家庭科、体育、生活、道徳などの副教科については保護者も子どもに対してそれほど勉強させていないのではないだろうか。これらの教科は受験に必要な教科ではない、しかしながら、日々の生活をより豊かにしてくれる大切な教科であると筆者は強く思う。

### 【日本の小中学校における各教科の授業数】

#### ▼小学校

区分		第1学年	第2学年	第3学年	第4学年	第5学年	第6学年
各教科の授業時数	国語	306	315	245	245	175	175
	社会			70	90	100	105
	算数	136	175	175	175	175	175
	理科			90	105	105	105
	生活	102	105				
	音楽	68	70	60	60	50	50
	図画工作	68	70	60	60	50	50
	家庭					60	55
	体育	102	105	105	105	90	90
道徳の授業時数		34	35	35	35	35	35
外国語活動の授業時数						35	35
総合的な学習の時間の授業時数				70	70	70	70
特別活動の授業時数		34	35	35	35	35	35
総授業時数		850	910	945	980	980	980

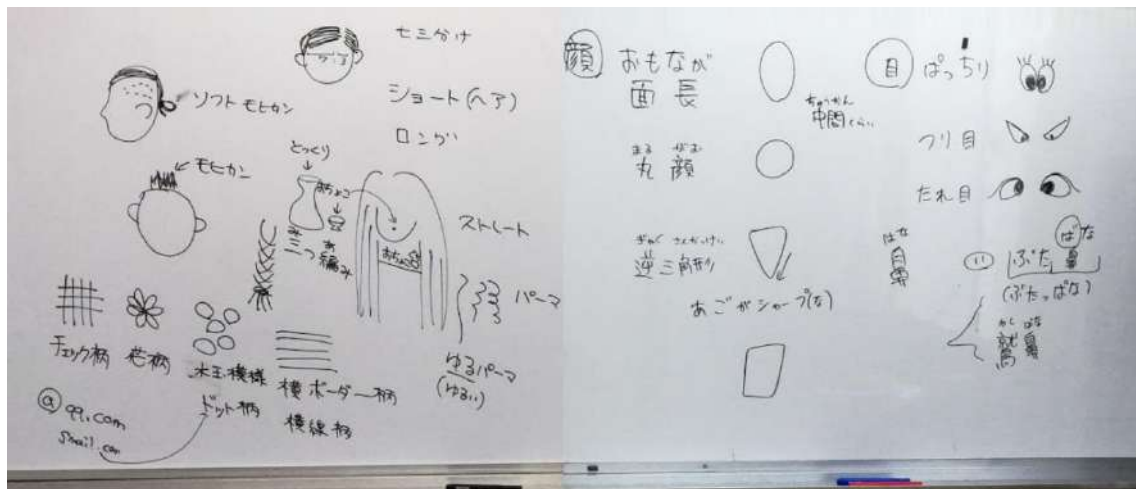
#### ▼中学校

区分		第1学年	第2学年	第3学年
各教科の授業時数	国語	140	140	105
	社会	105	105	140
	数学	140	105	140
	理科	105	140	140
	音楽	45	35	35
	美術	45	35	35
	保健体育	105	105	105
	技術・家庭	70	70	35
	外国語	140	140	140
道徳の授業時数		35	35	35
総合的な学習の時間の授業時数		50	70	70
特別活動の授業時数		35	35	35
総授業時数		1015	1015	1015

(文部科学省ホームページより)

筆者は日本語を教えることを仕事としているのですが、外国語を教える際にとどき、言葉で説明するよりも絵を描いて説明してあげることが多々ある。何気なく描いた絵でも手前味噌で恐縮だが、生徒から「先生は絵がとても上手です！」と言われることがある。自分は絵が得意であるという認識はなかったのですが、何度か言われることがあったので、今では絵を描くことも自分の特技と認識することにした。どうして絵が上手に書けるようになったのか。振り返ってみると日本の小中学校で過ごした学校生活の中にヒントがあるように感じた。筆者は小学三年生から日本に来て生活することになったので、それ以前の幼稚園などは体験していないが、子どもたちの幼稚園生活を見ていると、絵を描くことの始まりは幼稚園や保育園で既に始まっているようだ。今回はその原点に立ち返ってみてみることにしよう。

## 【筆者がレッスン中にさりげなく書いた絵】



## 描くこととの出会い

描くことの始まりは、個々の成長スピードによっても違うが、おおよそスプーンが1人で持てるようになった頃だろう。スプーン同様、手をグーにして色鉛筆やクレパスを握れるようになったら、真っ白い大きい紙を出して大人と一緒に描いてあげよう。点でもいいし、線や丸、四角といった形でもよい。描けるようになったら、形の中を塗ってもらおう。ぬりえは幼い年齢の子どもにとって集中力や手先の器用さを鍛えられるとても良い遊びです。

色塗りができるようになった後は、大人が点線などを描いて、それを子どもになぞってもらおう。大人が横で書いたものを子どもに真似っこしてもらい書いてもらうのもいいでしょう。

アニメや漫画のキャラクターにはよく絵描き歌があります。ママやパパがお歌を歌いながら、子どもに好きなキャラクターの絵を描いてあげるとは子どももきっと大いに喜ぶことでしょう。子どもは真似っこが大好きなので、もしかすると自分で描いてみようという意欲がわくかもしれません。

### 【ピカチュウの絵描き歌動画】

<https://youtu.be/EidknQCUI4E>



### 幼稚園・保育園でのお絵描き

幼稚園や保育園では、お絵描きという名称で絵を描く指導をします。絵を描く際にも、クレパスをはじめ、色鉛筆、マーカー、絵の具と様々な道具を小さい年齢から触れる機会があります。

園で先生が指導をするときは、1つずつの手順を子どもに説明しながら、いっしょに描いていっています。先生が「大きく顔を描きましょう」といい、それを真似して、子どもたちも「大きく顔を描きましょう」と言い、それから思い思いに描いていました。クレパスで描いた絵の上に色を塗り、それからさらに絵の具を重ねて塗っていくこともあります。

園によっては行事の一つとして絵画展を催すこともありますが、子どもたちが力いっぱい伸び伸びと描いた絵を見ると大人も元気をもらいます。

【幼稚園や保育園で使う「色鉛筆」「クレパス」「マーカー」】



【お絵描きをしている様子と絵画展での3歳児の作品】



## 小学校

小学校の日課表にある図工ですが、元は図画工作(ずがこうさく)という正式名称です。絵を描いたり工作物を作ったりします。小学校に入ると、1年生から絵の具セットを準備する必要があります。絵の具を使って作品を仕上げていき、仕上げた絵は学校や市、県のコンクールを経て、文部科学省が主催する絵画コンクールに出品されることもあります。

【小学校で使う絵の具セット】



また、図工では、絵を描くだけではなく、粘土や木などで制作をした後に、絵を描いたり色を塗ったりして作品を作ることもあります。高学年になると、彫刻刀を使って版画を作ることもあります。下書きをしたあとに、彫っていくのだが、枠線だけでなく、作品全体に立体感を出すために面の部分にも彫る工夫などが必要な作業となります。また、他にも、のこぎりやかんななど普段家ではなかなか使えないような道具を使って手を動かして制作に取り組みます。出来上がった作品は大人になっても良い記念になります。

#### 【彫刻刀と版画】



4年生の作品「スーパーにんじん侍(超级胡萝卜侠)」



ここまででは幼稚園や学校でのお絵描きと図工についての内容でしたが、絵を描くことは図工の授業以外でも多々あります。小学校を例にみると、夏休みの宿題の定番である「夏休みの絵日記」や「朝顔の観察日記」。また、理科の時間などに行われる「動物や植物などの考察」も絵を描くことが伴う課題です。

#### 【夏休みの絵日記、観察日記など】



ここで描く絵は、先ほどまでの作品としての絵ではなく、学習の手助けとなる絵です。なぜならば、絵日記を描くためには過去の記憶を回想することが必要となります。そしてその内容を文や絵にすることは自分なりの考えを表現することに繋がります。朝顔の観察日記や動植物の考察で絵を描くことは、対象物を認識する力に繋がります。想像して描いた朝顔と、実際に見ながら描いた朝顔とでは細かいところが全く違って来るはずで、よく見て描くことで、葉っぱの形や花の模様などを覚え、知識として身に着けることとなります。夏休みの絵日記には日記だけでは表現しきれないものがあるから絵が必要なわけだったのです。言葉だけでは足りないから補助的に絵を使う。もっと伝わりやすいように絵を使う。このような考えが日常の中で絵がよく使われるもう一つの理由ではないだろうか。

お絵描きから始まり、学年が上がるにつれて、学問としての呼び名は図工、美術、技術などと変わっていくが、絵は勉強や仕事、日常生活の一部として必要な教養です。学校で勉強したこと勉強として終わりにするのではなく、普段の生活を豊かにしてくれるエッセンスとして日常でも使っていきたいものです。

【筆者が休日に絵を描いた植木鉢】

